

平成29年度 南房総市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成29年11月27日(月) 午後4時45分開会～午後5時33分閉会

2 場 所 南房総市役所本庁舎 2階第2会議室

3 出席者 市長 石井 裕
委員長 小宮 忠
委員 岡崎 俊明
委員 庄司 美佳
委員 石井 美智代
教育長 三幣 貞夫

4 事務局 教育次長 宇治原 洋一
参事 渡邊 均
教育総務課長 石井 喜弘
子ども教育課長 水島 孝夫
生涯学習課長 加藤 勉
教育総務課課長補佐 松本省吾
教育総務課副主幹兼総務係長 佐久間 正博

5 開 会 宇治原教育次長が開会を宣言

6 市長あいさつ

7 協議・調整事項

(1) 南房総市の教育行政について

市長 南房総市総体的には、学校内雰囲気としても環境としても落ち着いて来ていると思っております。個々に見ればいろんな課題があるかと思いますが、おかげさまでそういう状況で推移していると思っております。

市の教育の基本的な方針としては、今後もこれまで掲げてきております学力の向上ですとか南房総学の推進ですとか、これまでの基本方針を今後とも踏襲していきたいなと思っております。

個々に感じることは、教育相談センターの機能・役割というものが非常に増してきている。実態としては、人数の面ではマンパワー不足のところもあって、そういった面で機能を拡充していく必要があると聞いております。そういう問題を抱えている家庭一人一人に、できるだけきめ細かく寄り添う形をとればと思っております。

市としては、財政的に教育面では頑張ってきているつもりでおります。市の総体的な予算は今後もますます厳しくなっておりますので、どの分野でもそうですが、今まで以上に予算を追加的に加算していくというのは難しい状況にありまして、それぞれの分野が課題を抱えている中で、新たな対応を求められていますけど、できる限り現在の予算の範囲内でやりくりして対応していく必要があると思っております。

ですから、教育面においてもこれからいろんな分野に力を入れていく必要があるし、そこには予算もかかるであろうということに関しても、そこに予算を追加していくということは考えづらいので、今の原形の予算規模の中で予算を組み替えるとか、やりくりをする中で対応をお願いしたいと思っております。

市の基本的な考え方・方針としては大きな変わりはないわけですけど、顕在化してきている個々の問題には、できるだけきめ細かくアプローチしていきたいと思っております。

委員長 学校教育に対して非常に手厚く、他市と比べても素晴らしい取り組みがなされているのではないかなと思っております。

一方で、公民館ですとか文化財を保護するという点での活動が、学校教育の充実ぶり比べると、これからかなという気がします。ただ建物だけがあって、物が陳列されていてあまり活用されていないという施設をよく見ますけど、そうなりたくないという気がします。そういう意味で、先日教育の日に三芳小学校の取り組みがありまして、学芸員の岡山さんと一緒に活動したあの活動は非常に良かったと思います。ですので、ああいう形で文化財を生かしていくというか、うまく保護していくということに繋げていけたらいいなという思いがあります。

市長 物としての文化財が散在してしまっていて、以前からいろんな方々からご意見をいただいておりますけど、ハード整備すれば良いというわけではありませんけど、資料館的なものを整備すれば良いのではないかと、そういう環境づくりをしていく必要があるんだろうというご指摘については、その通りであろうと認識しています。

以前から議員さんからもご質問をいただく中で、量が多いものですから、どこまでのものをどういう形で保管していくのが良いのか。又、どこまでをどういう風に生かしていくという様な、整理に手が回らない現状がありまして。

ハード面で言っても、1カ所あるいは2カ所で収容する様な場所を、どのように何処に確保できるかというのも解決ができていない状況がございます。この問題に関しても、今後3年、4年の中で、施設の再編をしていく中で、そういう場所も見出していく必要があるかなと思

ています。

あとは、学芸員の方の能力を、この間の三芳小学校の発表のように学校教育の中に取り組んでいくことについては、良かったことだと思います。

教育長 目玉となる展示品が、あまりない。これだけでお客を呼べる文化財が、南房総市にはないんじゃないかなと思います。もう一つには、興味鑑賞を持ってもらえるストーリーですよ。例えば、里見は館山市がつくっちゃいましたから、里見との関係でストーリーがありますけど。鋸南は菱川師宣、鴨川は波の伊八がありますけど、そういうストーリー性を考えて、市長が言ったハード面を考えていかないと、単に箱物を作っただけで終わってしまう。保管庫的なものが一番現実的ではないか。展示は例えば、市役所の一角とか元気倶楽部に変えていくというのが一番現実的だと考えています。

委員長 学校の統廃合によって空いてくる旧小学校の利活用の基本方針と言いますか、一括して残すとか、一括して有効利用して使えるところは外部へ出すとか、一つ一つの施設によって目的が変わってくるという考えなのか、いかがでしょうか。

市長 閉校後の学校施設の活用ということになりますと、具体的に上げれば忽戸小学校、和田中、平群小の跡地ですか。嶺南小学校建設の後、南三原小学校と和田小については、現状では取り壊すことになろうかと思えます。建物自体老朽化していますので、これを再利用するというのは難しいかなと思います。取り壊した後の跡地利用は、また考えなくてはなりませんけれども、既存のものとしては、忽戸小学校と和田中学校、平群小は新たな活用に向けて取り組みを始めているところですけど、その施設を現実的にどうするかということになろうかと思うんですよね。この点については、地域の方にご理解をいただきながら、愛着のある学校を閉校しまして、この建物が未定利用のままの状況であるというのは、そのままではいけないと思っていますので、今後3～4年の中で活用方針を見出していきたいなと思います。

ただ、それぞれの建物の規模が大きいので、市がすべて維持し続けることは財政的に厳しいかなというところが率直なところですね。

岡崎委員 毎日新聞を見ますと、交付額が3、890万円国から来ているものですね。人件費にさらに上乗せして、2.2倍にあたる1,850万円を支援員事業に充てて成果が表れており、素晴らしい取り組みだと思います。成果が表れているものについては、是非とも継続して続けていっていただければと思うんですけど、一方で厳しい財源ですので、何かを削らなければいけないかなと思うんです。その辺のところはよく精査しながら取り組んでいただければと思います。

市長 全体的なことと言いますと、今後財政が厳しくなっていくわけですけど、今やっている内容については、大きく削減していくということは、現状では考えていません。

庄司委員 先日の教育長・教育委員研修で、南房総市の平均年収が千葉県で一番最低だと聞

いて驚いてしまい、子どもの貧困連鎖とか難しい問題もあるんですけど、南房総市がいろいろな教育支援をされていて、素晴らしいところだなと思っています。そういった取り組みをあまり知られていないような気がして、市民に伝えてくれる方やアピールの仕方をもっと簡単にできれば良いのではという思いがしています。

市長 教育面では、他市にないような取り組みをやっていますが、その取り組みが市民の方々にとって特別なことをやってもらっているというのが、実感としてはわからないと思うんですよ。ただ、私としては少しでも教育に力を入れているという、そんなことによって南房総市で暮らしてみようか、子育てしようかということに繋がってくれば良いなと思っています。

あと経済施策について細々したことをやっています、南房総市の市民の方が約4万人いらっしゃって、その4万人のうちどれだけの人が補助事業を活用されているかということ、ごく一部の方に過ぎないので、こういう経済対策が全般的に市民の方に伝わっていない。必要とする人に必要な経済支援が基本的なスタンスであるので、待っていれば支援が届くんだという人には、申し訳ないけど手が届いていないというのが現状としてはあります。

庄司委員 今回知ったので、触れ回ってみようかなと思います。

市長 市政懇談会や区長さんの集まりとか、折に触れ予算の内容は説明させてもらっていますが、直接関係のない内容が多いので、なかなか伝わりづらいところがありますね。

岡崎委員 今の若い人は、スマートフォンをよく見ていまして、市のホームページをよく開いています。子育てに関することとか、自分に関係することに関して情報収集しようとする意識をもっていますので、市のホームページの充実ということがひとつのポイントになるかと思っています。

市長 ホームページをご覧になると、関心のある所しか結局見ませんが、なるべく分かりやすく情報発信していきたいと思っています。

庄司委員 ネット社会は怖いこともありますけど、今回初めて求人票を全国ネットで公開してみました。そうしたら東京の一般のサラリーマンの方からの応募があり、また東京都立の町田高校定時制の子から応募があって、体験乗船して、4月から入社したいと強い思いをもって来てくれることになったので、ネットをうまく使えばすごく活用できますね。

市長 今の若い人たちは、東京じゃなければというこだわりもなくなってきて、自分の求めるものがあれば地方でも良いと切り替わってきていると思います。

石井委員 感想になりますが、1つ目に保育園児から中学生までおいしいご飯給食を食べさせていただいていることに感謝いたします。南房総市でとれたお米、魚、野菜等ふんだんに取り入れた安心で安全な給食に、保護者からの感謝の言葉をよく耳にします。これからも地産地消の推進から、地域の子どもたちがもっと元気になるように、ご飯給食を続けていただきたいと思っています。

2つ目ですが、他の市・町からの視察が多い南房総市ですが、地元の方にももっと興味を持って理解してもらえたらなという思いを感じます。この“ことしの予算”わかりやすくとても良いなと思います。私も市のホームページをよく見るんですけど、こういうのが手元に渡ればわかりやすいなと思うんですけど、目にしなければ興味もわきませんので、やはりPRの仕方なのかなと感じます。子どもに関わる地域の方々も環境の一つなので、地域全体で子どもたちの成長に責任をもっていけたら、街づくり・人づくりに繋がっていくんじゃないかなと感じています。

市長 学校給食はもちろん、これからも続けていきたいなと思っています。ことしの予算とこの資料は4月に全戸配布させてもらっていますけど、開けて見るってところまでみなさんなかなかいかないと思うんですね。字が小さすぎて読みづらいとかあると思うんですけど、なるべく分かりやすく工夫はしているつもりなんで、できるだけ読んでもらいたいなと、いろんな場面でPRしていきたいなと思います。

委員長 内房の状況はわかりませんが、近所の商店がどんどん減ってきてしまっているんですね。これから先も高齢化したり、後継ぎが外へ出てしまったりとか考えると、お店がどんどん無くなってしまわないかと。家の前に、移動販売車が来るようになったんです。最初は近所の3～4人の方が来てたんですけど、今はその時間帯になると、車が来るのを待っている状況で、かなりの人数の方が寄ってくるんですね。となりの地区からも来るようになっていて、そこに何かヒントがありそうだなと思いました。

もうひとつは、道の駅が外来者だけじゃなくて、地元の人にも便利なところになったら、いわゆるお土産ではなくて生活用品が買えるようになっていったら、住民に伝わっていくんじゃないかなという気がします。

市長 道の駅のことですと、それぞれが建設されたコンセプトというか規模の問題があり、まったく違います。初めからどれ位の規模とか想定しづらくて、いざ開業してみて改善点が見えてくるんですけど。和田の道の駅で言いますと、生活雑貨まで取り扱うまではいかないかもかもしれませんが、一次産品でいいますと、地元のものを取り扱えるように力を入れてほしいなと感じるところではあります。いまある状況からすると、道の駅が、周囲から商店も無くなってきていますから、できるだけ生活に必要な最低限の機能が果たせるようになっていくことが課題と思っています。

委員長 人口減を食い止めるというか、若者を多く引き付けておきたいですね。

市長 いろんな形で、雇用の確保というか職場の確保については努力してきているんですけど、大きな製造業を誘致するのは無理なので、南房総なりの特性にあった中・小でもこちらに関心を持ってきてもらえる所を1社でも増やすという、こういうスタンスかなと思っているんですけど。一次産業も、あと何年かのうちに変わってくるかなと思うんですけど。クジラも技

術を継承していくこと、人を繋いでいくということは大変なんでしょうね。

庄司委員 気象とかいろんなことに左右され難しいんですけど、何か体験させることに興味があるので、そういったものをうまく利用して若者たちが大自然と一緒に生きていき、命のものをいただき、感じながら生きるというのは低収入と言われてはいますが、収入にはない何か心の恵みみたいのがたくさん南房総市にあると思うので、そういったものをアピールできる事業があったら楽しいなと思います。

委員長 岩井の民宿で、臨海学校で多くの子どもたちが来ていた時代がありますね。今言った様な体験を多くできるようにして、南房総市の良さを味わってもらって、酪農もというような体験を増やしていき、もっとアピールするような、少しでも子どもたちが魅力を感じてくれれば、外から来るだけじゃなくて、地元の子どもたちにも地元の良さを知ってもらおう。

市長 そういう機会を、できるだけ増やしていきたいですね。

教育長 千葉市の小学生たちは、かつて千葉市にお金があった時は、市で全部補助を出して5年生・6年生を、今その流れで大房と富山の岩井の民宿に1泊ずつ泊まって農村体験とかやっているんです。それが、千葉市でお金が無くなってきて、個人負担になってきたんですよ。それでもやりたいという親子がいるんです。いまみなさまがおっしゃった様な、そういうことを望んでいる家族がいるということと、それをいかに我々が関わっていけるかということだと思えます。

市長 体験ということで、旅行商品としてお金をいただく。巻き割りなんて旅行商品ですかね。

教育長 物の消費じゃなくて、事の消費ですね。

委員長 逆にそれを誘致してしまっただけで、地元の子どもたちも一緒にやる。最近海を見てると、地元の子どもは泳いでいません。よその人は、お金を使ってわざわざ来てるのに、地元の子どもたちは、その良さを味わわないのは、もったいないなと思います。

教育長 来た子どもたちが、20年・30年経って親になった時に、そういうのがどれだけこっちへ返ってくるかという。あるいは、近いところで家族で来るとか、そういう可能性が大きければ良いんですけど。

市長 なかなか、お一人お一人に直接補助を出すということは出来ませんが、大房の施設をNPOさんと連携して、その機能を維持し続けることも大事な事かなと思っています。

庄司委員 反省として、アンテナを張って情報を入れておかないと、いろんなことをやっているというのを全然知らなくて、そういうものに興味を持っていこうと思いました。

8 閉 会 宇治原教育次長が閉会を宣言